

## 施設の処理規模の確認について

### 1 ごみ焼却施設

#### (1) 通常のごみ処理に必要な処理規模の確認

ア 計画目標年次年間平均処理量

##### (ア) 推計値と実績値の比較

平成 27 年度の実績値を確認すると、ごみ処理基本構想（以下「基本構想」という。）における推計値と比較して年間約 900 t 増と差が生じている。

主な要因としては、人口増が考えられる。人口の推計値では、平成 27 年度に両市合計で 198,022 人としていたが、実績値では 199,752 人と約 1,700 人増となっている。

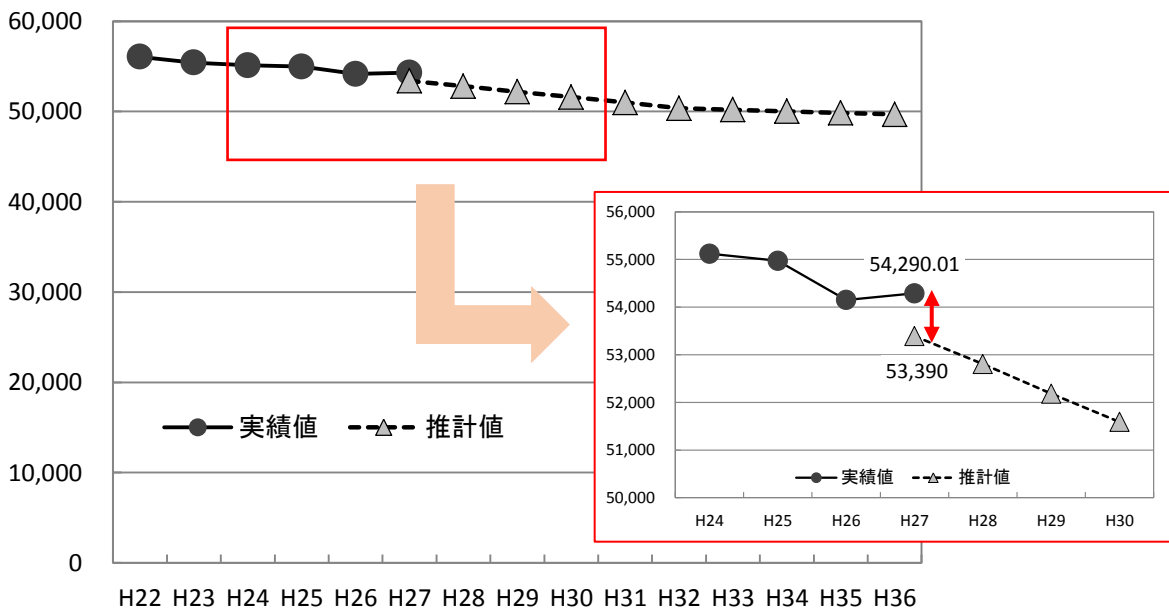


図 1 推計値と実績値の比較（ごみ焼却施設）

#### (イ) 平成 27 年度実績を踏まえた計画目標年次年間平均処理量

平成 27 年度の実績値と推計値の差分が計画目標年次における年間平均処理量にも影響すると仮定し、設定する。

$$49,677 \text{ t/年 (基本構想)} + 900 \text{ t/年 (推計値と実績値の差分)} = \underline{50,577 \text{ t/年}}$$

#### イ 計画年間日平均処理量（計画目標年次における年間平均処理量の日量換算）

$$50,577 \text{ t/年} \div 365 \text{ 日} = \underline{138.6 \text{ t/日}}$$

## ウ 処理規模

$$138.6 \text{ t/日} \div 0.767 (\text{実稼働率}) \div 0.96 (\text{調整稼働率}) = \underline{188.2 \text{ t/日}}$$

※実稼働率：(補修期間等による停止期間を加味した稼働日数)  $\div$  365 日

$$(365 \text{ 日} - 85 \text{ 日}) \div 365 \text{ 日} = 280 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = 0.767$$

年間停止日数 85 日：施設補修整備期間 30 日

補修点検期間 15 日  $\times$  2 回

全停止期間 7 日

起動に要する日数 3 日  $\times$  3 回

停止に要する日数 3 日  $\times$  3 回

※調整稼働率：0.96 (故障修理など一時停止(約 15 日間を想定)により

能力低下することを考慮した係数)

### (2) 災害廃棄物処理に必要な想定処理規模

基本構想における算定方法を踏襲し、災害廃棄物(可燃ごみ)発生量の 15% を 3 年間で処理することとする。

$$65,917 \text{ t} \times 15\% \div 3 \text{ 年} \div 280 \text{ 日} = \underline{11.8 \text{ t/日}}$$

### (3) ごみ焼却施設の処理規模

(1) 及び (2) より、平成 27 年度実績を踏まえたごみ焼却施設の 1 日当たりの処理規模は次のとおりである。

$$188.2 \text{ t/日 (通常時)} + 11.8 \text{ t/日 (災害廃棄物)} = \underline{200 \text{ t/日}}$$

このことから、基本構想で掲げられている 1 日当たり概ね 200 t と変わりないことを確認する。

## 2 粗大ごみ処理施設

### (1) 計画目標年次年間平均処理量

#### ア 推計値と実績値の比較

平成 27 年度の実績値を確認すると、ごみ処理基本構想(以下「基本構想」という。)における推計値と比較して年間約 33 t 増と差が生じている。

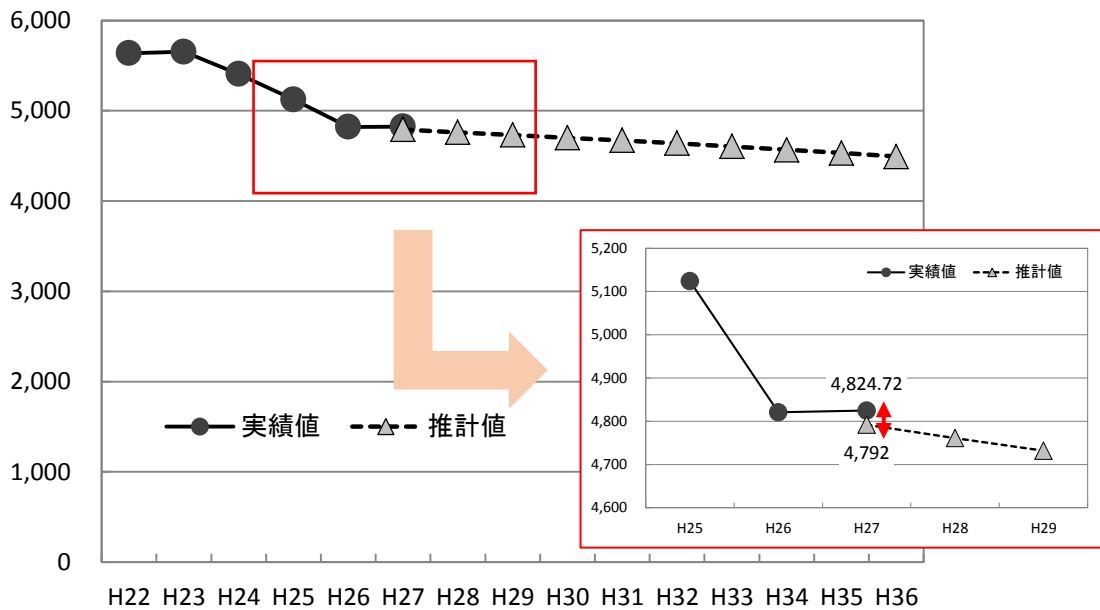


図2 推計値と実績値の比較（粗大ごみ処理施設）

イ 平成27年度実績を踏まえた計画目標年次年間平均処理量

平成27年度の推計値と実績値の差分が計画目標年次における年間平均処理量にも影響すると仮定し、設定する。

$$4,493 \text{ t/年 (基本構想)} + 33 \text{ t/年 (推計値と実績値の差分)} = \underline{4,526 \text{ t/年}}$$

(2) 計画年間日平均処理量（計画目標年次における年間平均処理量の日量換算）

$$4,526 \text{ t/年} \div 365 \text{ 日} = \underline{12.4 \text{ t/日}}$$

(3) 粗大ごみ処理施設の処理規模

$$12.4 \text{ t/日} \div 0.685 \text{ (実稼働率)} \times 1.15 \text{ (月変動係数)} = 20.8 \text{ t/日} \div \underline{21 \text{ t/日}}$$

※実稼働率：（補修期間等による停止期間を加味した稼働日数）÷365日

$$(365 \text{ 日} - 115 \text{ 日}) \div 365 \text{ 日} = 250 \text{ 日} \div 365 \text{ 日} = 0.685$$

年間停止日数 115日：土日 104日

年末年始 5日

補修整備期間 6日

※月変動係数：1.15（標準的な月変動係数）

平成27年度実績を加味した粗大ごみ処理施設の1日当たりの処理規模は21tとなり、基本構想で掲げられている1日当たり21tと変わらないことを確認する。

### 3 確認結果の整理

平成27年度実績を加味した処理規模の確認について、確認した結果を表1に整理する。

表1 処理量及び処理規模

項 目			基本構想	H27 実績考慮
<b>処理対象物</b>			( t / 年 )	( t / 年 )
<b>破碎処理量</b>		①=②+③-④	<b>4,493</b>	<b>4,526</b>
選別物	不燃物	②	3,675	-
	可燃物(粗大)	③	1,489	-
	外部処理	④	671	-
破碎物	可燃物	⑤= ①-⑥-⑦-⑧	3,609	-
	不燃物	⑥	-	-
	資源物	鉄	729	-
	資源物	アルミ	155	-
<b>焼却処理量</b>		⑨=⑤+(⑩-⑪)	<b>49,677</b>	<b>50,577</b>
選別物	可燃物	⑩	46,091	-
	資源物	⑪	23	-
<b>災害廃棄物処理量</b>		⑫	<b>65,917 t × 15% = 9,887.55 t</b>	
<b>施設規模</b>			( t / 日 )	( t / 日 )
<b>ごみ焼却施設</b>		a = b + c	<b>約 200</b>	<b>200</b>
通常のごみ処理		b	185	188.2
災害廃棄物処理		c	12	11.8
<b>粗大ごみ処理施設</b>		d	<b>21</b>	<b>21</b>